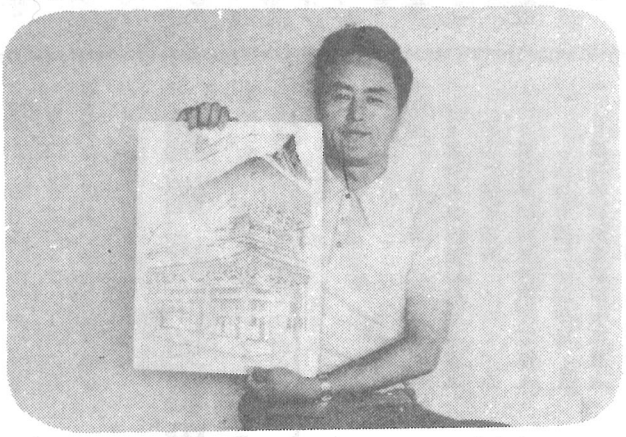
町民のひろば

自慢われこれ ⑳ ペン画

田崎一宇さん（新青）



▲労作円覚寺（鎌倉）の山門と田崎さん

子供のころ、愛読していた月刊誌に掲載されたある大家の作品に魅せられ、以来、この道のとりこになった――

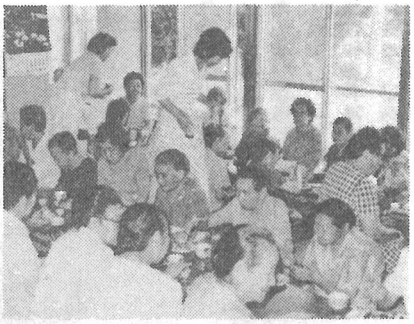
ペン画を始めて二十五年。以前の居住先（鎌倉）の関係からか、寺院を画材とした作品が数多い。

一番の魅力は「ペン一本で写真に近いほど精密な表現ができること」だそうだが、それだけに根気と好きでなければできないことも事実。名刺一枚分書くのに三時間余りを費すそうだ。

「ペン画は労作なのであまり人気がないんですよ」と話す田崎さんは、今後の抱負について「愛好者を募って展覧会を開いたり、情報交換したりしてペン画のよさを広く知らせたい」と語っていた。

（ご希望のかたは☎②4335田崎さんまで）

上町婦人会、お年寄りを慰労



六月二十日、上町婦人会（代表・江鳩治枝）二十五人が、上町青年館に同地域のおとしより四十六人を招いて慰労会を開きました。

この慰労会は、長年にわたって社会に貢献され、今日の礎を築いてこられたおとしよりを敬うことを目的に、去る四十八年から毎年行っているものです。

当日は、藪崎みつ代さんら四人の栄養改善推進委員の協力を得て用意した昼食や、婦人会有志による踊り、さらには健康体操などもあって、盛りだくさんのプログラムにおとしよりたちは久びさに〝心のシワ〟をのばしていました。

〝新しい婦人会〟づくりめざして

6月15日、中央公民館で、第1回の婦人会第2分会（横芝地区）役員会が開かれました。

席上、滝川とも会長（東ヶ丘）が「組織の体質改善をはかり、会員ぐるみの新しい婦人会づくりをめざそう」とあいさつ。マンネリ化からの会活動の打開と、多様化した会員の要求にどう答えるかなどをテーマに、約2時間にわたって活発な意見交換がなされました。

車いすのダンス

滝川とも（東ヶ丘）

ワンツースリー、ワンツースリー
東金中央公民館に流れるメロディー
踊っている　踊っている講堂いっぱいに
車いすの青年が　老母が
皆　楽しそうに踊っている
なぜか別の世界に来たようだ
私も勇気を出して踊りの中に加わった
パートナーは芝山町の芝山君
結んだ青年の手はがっちりと重かった
車いすと体重全体が両手に加わるのだろう
私は全身の力で青年の手を引いた
ステップが上手ですね、と青年が言う
足が不自由だって、踊っている今の気持ちで
一生頑張ってね、と私は言った
青年はあかるくつぎつぎの人と
組んで踊っていた　広い会場いっぱいに――
いろいろなカップルが踊っている
私は今日何しに来たのだろうか
ハンデの中に生きる人の逞しさ
明るさ　美しさ
ボランティア活動のつもりで参加して
逆にいろいろ教えられた
後にのこるのは自己反省のみ
恥ずかしさの中で考えた
自分の今後の生き方を――

（町婦人会第二分会会報より）